初めての「授業公開」

人文社会学部は発足して 10 年になるが、経済学部につづいて「授業公開」を初めて実施した。法人化に向けた社会・地域連携事業の一環であり、提起した学部長が初回をつとめることになった。公開したのは「現代都市問題」という学部の講義であり、昨年 10 月 4 日から 1 月 17 日まで 14 回の講義を休講・遅刻せずに行うことができ、正直なところほっとしている。通常の講義より、緊張気味で時間が長く感じられた。

写真は講義が終わって、１階の会議室で実施した「修了式」の模様である。わたしの

感想めいた挨拶のあと、出席回数の多い人たちに「修了証書」を手渡した。

この写真からもわかるように、年齢は多様である。昨夏に募集したところ、79 名の応募があり、抽選で 25 名を選んだ。受講者は 30 歳台の女性から、80 歳台の男性までと幅広く、学ぶ意欲はじつに旺盛で欠席は少なかった。7 名の受講者は毎回出席であり、遅刻もせずに毎回熱心に受講されていた 80 歳台の男性もその１人である。講義が始まる前に、その男性がいつも座るほうに目がいったものだ。

講義は火曜日の 1 限目であり、201 という学部としては大きな教室で行った。時間前から前のほうに着席するのは聴講生の皆さんであり、遅刻してくる学生が目についた。懐かしい映像も多く利用して、日本の都市と都市問題、持続可能な都市について問題提起的に講義を進めた。講義に対する真剣な姿勢をひしひしと感じて、いつも以上に「調子」があがったようだ。「修了式」後の懇談会において、講義がわかりやすく、講義を楽しみにしていたという感想などが述べられ、本当にうれしかった。受講者からの要望も強く、ぜひとも「授業公開」を持続的に発展させていきたい。

（2006 年 1 月 19 日　記）